

山形県東田川郡三川町方言の立ち上げ詞

佐藤亮一

I. はじめに

- 1.調査対象地：三川町は山形県庄内地方のほぼ中心部に位置する。山形県の方言は、北奥方言に属する庄内方言と南奥方言に属する内陸方言に二分され、両者の方言的特徴はかなり異なる。人口は2005年8月現在7864人。庄内米「はえぬき」、だだちゃ豆（枝豆）、庄内メロンなどを主産物とする農業の町である。1987年から2004年まで「全国方言大会」を開催したことでも知られている。
- 2.調査年月日：2005年9月9日午後2時から4時まで。
- 3.話者：佐藤武夫氏 1948（昭和23）年3月30日生まれ。三川方言研究会会長。全国方言大会初代委員長。著書に『みかわの方言』があり、50代ではあるが、方言語彙に精通している点では高年層なみである。すぐれた内省力を有し、方言話者として最適である。
- 4.調査者・調査場所 佐藤亮一・田田の宿（三川町自慢の温泉つき宿泊施設）
- 5.調査方法：統一調査票による質問調査
- 6.その他：表記は表音的カタカナ（鼻濁音を除く）を用いる。この方言は、シとス、ジとズ、チとツの区別がなく、それぞれ、その中間の中舌母音を含む音声で発音されるが、ここでは、それらを「ス」「ズ」「ツ」と表記した。したがって、たとえば、「土」はツズ、「寿司」はススと表記することになる。また、鼻濁音は平仮名の「がぎぐげご」を用いた。なお、都合により、録音がとれなかったので、アクセントの記述は省略した。

II. 調査結果

I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1) どっこいしょ。一休みしよう。

○ヨッコシヨ（または、ドッコイシヨ、ドッコシヨ） イップク スッガ。どっこいしょ。いっぶくしようか。

(2) どうれ。出かけることにしよう。

○ドーレ デガゲッガ。どうれ。出かけようか。

(3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。

○ヨッコラシヨ（ヨッコシヨ） ヤット テッベンサ ツイダ。よいしょ。やっと天辺に着いた。

(4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった。

○アー モー チョットデ オズットゴダ。ああ、もう少しで落ちるところだ。

- (5) くわばらくわばら。恐ろしかった。
○アー コエツケ。ああ、こわかった。<「くわばら」に当る表現は存在しない>
- (6) しめた！今度の魚は大きいぞ。
○アー キタキタ。コレワ オッキ（一）ゾ。ああ、来た来た。これは大きいぞ。
- (7) ままよ。飛び越えるしかない。
○ヨーシ コノ カワ マタぐスカネ。ようし、この川をまたいで越えるしか（方法が）ない。
- (8) なにくそ！負けてなるものか。
○コンツグショー マゲデラエネ。こん畜生。負けてはいられない。
- (9) しめしめ！誰も気がついていない。
○ヨスヨス ダレモ ワガラネゾ。よしよし、誰も（自分の存在を）知らないぞ。<「ワガラネ」には「知らない」と「だめだ」の二つの意味がある。「ソナナ ゴド ステワガラネ」と言えば、「そんなことをしてはだめだ」の意>
- (10) ちえっ。つまらないなあ。
○アー ヤンダナー。ああ嫌だなあ。
- (11) ちくしょう！仕返しをしてやる。
○ツクショー（アノ ヤロー）スカエス スネマネ。畜生（あの野郎）。仕返しをしなければならぬ。<動詞の未然形に「ネマネ」が付くと「～しなければならぬ」の意味になる。例「ヨマネマネ」読まなければならぬ>
- (12) くそっ！覚えている！
○ツクショー（ワネ）（ワンピラダ）オベデロ。畜生。覚えている。<ワネは「お前」、ワンピラダは「お前たち」の意。代名詞が「畜生」に当るのしりこととなり、相手が一人のときはワネ、複数のときはワンピラダを用いる。東京方言の「てめえ！覚えてやがれ」などに当る表現と言えよう。なお「び」は「ビ」と「べ」の中間の音を表す>
- (13) おやおや、いったいどうしたの。
○（孫の名前を呼んで）ナニ スタナヤー。なにをしたのか。
- (14) えへん、えへん。我輩は村一番の力持ちじゃ。
○ワーダヤ！オレ イズバン ツガラモズダゾ。お前達よ。おれは一番力持ちだぞ。
<複数の人物を前にして威張るときは、ワーダヤと呼びかける>
- (15) はてな。ここはどこだろう。
○ハテ ドゴダロ。はてな。どこだろう。

Ⅱ.他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

- (16) はい、承知いたしました。
○ハイ ワガリマスタ。はい。分かりました。

(17) ハイ。宜しゅうございます。

○ハイ イーデス。はい。いいです。

(18) ええ、ここにいます。

○ハイ イマス。はい。います。

(19) んだ。私の傘です。

○ンダ。オレナダ。そうだ。おれのだ。

(20) さよう、さよう。あなたの言う通り。

○ンダ ンダ。ワーノ ユートーリダ。そうだそうだ。お前の言う通りだ。

(21) ほいきた。おやすいご用です。

○ヨス ヨス。オレサ マガシエレ。よしよし。おれにまかせろ。

(22) よっしゃ。やりましょう。

○ヨース。ヤッガ。ようし。やるか。

(23) よしきた。お引き受けしましょう。

○21に同じ。

(24) がってんだ。一緒に行きましょう。

○ヨース イッショ イグガ。ようし。一緒に行くか。

(25) かつばのへだ。簡単だ。

○ヨス ワガタ。よし。分かった。〈おどけて言う立ち上げ詞は存在しない〉

(26) いえいえ、とんでもございません。

○イヤ イヤ タイシタ オカマイ デギナグデ。いやいや。たいしたおかまいできなくて。〈場面が指定されていないので、答えにくそうだった。これは、客に自宅でご馳走して、礼を言われたという場面〉

(27) なんの、たいしたことではございません。

○ナーニ タイシタコト ネーツケ。なあに。たいしたことはなかった。(過去に終了した事例に礼を言われて謙遜する場合には、このように「~ケ」という過去のテンスを用いる。これから貢献する事例、たとえば、田植えの手伝いを約束して礼を言われたときには、「ナーニ タイシタコト ネー」のように表現する〉

(28) なあに擦り傷(すりきず)ぐらい、すぐ治るさ。

○ナーニ コノグライ スグナオル。なあに、このくらい、すぐ治る。

.....
(29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って!

○ナンダデ イッツモ チョース イグデ。なんだよ。いつも調子良くて。

(30) いやはや、とんだ目に遭いました。

○マンズ トンダ メニ アッタデ。いや、とんだ目に遭ったよ。

(31) へん、勝手にしやがれ。

○シェバ ワー カッテニ セヤ。それでは、お前が勝手にしろよ。

(32) なめるんじゃねえよ。こいつ。

○ナメンナヨ コノ ヤロー。なめるなよ。この野郎。

(33) 冗談じゃない。口から出任せを言って！

○ワラワセンナチャ。デマガシエ イッデ。笑わせんなよ。出任せを言って。

(34) だまらっしゃい。出鱈目（でたらめ）ばかり言って。

○ウルセ。デタラメ ユーナ。うるさい。でたらめを言うな。

(35) そうは問屋がおろさねえ。黙ってられねえ。

○オット ドッコイ ダマッテ ネーゾ。おっとどっこい。黙っていないぞ。

(36) うそもへちまもありやしねえ。我慢（がまん）できねえ。

○ジョーダンデネー。ガマンサエネー。冗談じゃない。がまんできない。

(37) 寝言は寝ていえ。このやろう。

○コノ ウソツキヤロー。この嘘つき野郎。＜「出鱈目だ。間違いだ」の意味で喧嘩腰になった時の言い方」という質問文の意図を汲んでの回答＞

(38) あたりきしやりきのけつのあな。当たり前だ！」

○アダリメダ。当たり前だ。＜「あたりきしやりきのけつのあな」という表現は聞いたことがない＞

(39) きみょうきてれつだ。それは変だ。

○ソげダ ハナス オガスゼ。そのような話しはおかしいよ。＜「にわかには信じ難くて、疑わしい話の場合」という質問文の意図を汲んでの回答。ただし、質問文にある「滑稽の意味を込めて」という要素は入っていない。

.....
(40) ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○ホー オヤコーコーダコドノ。ほう。親孝行なことね。

(41) まいった、まいった。しかたがない。

○マイッタ マイッタ。スカダネーナ。まいった、まいった。しかたがないね。

Ⅲ.他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42) もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○回答①アノ ノー ヤグバ ドサ アル？あのねえ、役場はどこにある？

回答②チョット スミマセン ヤグバ ドサ アルモンダ。ちょっと、すみません。役場はどこにありますか。＜②は①より少し丁寧な表現＞

(43) のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。

○回答①オキヤクサン オチャデモ ドーゾ。お客さん、御茶でもどうぞ。

回答②オキヤクサン ドーゾ ヤスンデッテ クレ。お客さん、どうぞ休んでいってくれ。

(44) ほら、ご覧なさい。向うに公園があります。

○ホレ ミッチャ。アッチャ コーエン アッサゲ。ほら、見なさい。あそこに公園があるから。

(45) やいやい、こんなに朝早くからどこへ行くんだ？

○コゲ ハヤグ ドサ イグナ。こんなに早くどこに行くの。＜普通は立ち上げ詞に当る形式は付けない。強いて付けるとすれば「チョット」もしくは相手の名前を呼ぶ＞

(46) よう、兄弟、これから何をするつもりだい。

○（前に何も付けず）コレガラ ナニ スンナヤ。これから何をするのか。

(47) いざ、さらば。

○回答①シェバ ノー。それではねえ。

回答②マンズ ノー。それではねえ。

(48) ささ、ご遠慮なく、召し上がって下さい。

○マンズ ズンギ スネデ クッテ ケレ。さあ、遠慮しないで食べてくれ。

(49) さて、そろそろ一服しませんか。

○オー ソロソロ イップク スッガ。おう、そろそろ一服するか。

(50) これこれ、ちょっと静かにしなさい。

回答①オメがダ チョット スズガシエ。お前たち、ちょっと静かにしろ。

回答②オメがダ ダマッテレ。お前たち、静かにしろ。

＜「オメがダ」は立ち上げ詞の一種と考えられる。「ダマッテレ」は庄内方言では「動くな」の意＞

(51) おい、こら。万引きをしてはいけない。

○（オイ）コラ マンビギ スンナ。（おい）こら、万引きするな。

(52) おどりゃあ、いい加減にしないか。

○コラ ヤメレ。こら、やめろ。

(53) おのれ、裏切りやがったな。

○ワネ ウラギッタナ。お前！裏切ったな。＜「ワネ」は本来代名詞だが、感動詞（立ち上げ詞）化している＞

(54) どっこい。その手には乗らない。

○回答①オラ ヤンダデ。私は嫌だよ。

回答②オラ ヤンダデ。ダマサレネーゾ。私は嫌だよ。だまされないぞ。

(55) どうだ、参ったか？

○ドーダ マイッダガ。どうだ、参ったか。

.....
(56) せいの、よいしょ！。

○セーノ ヨイショ。

(57) ようい どん！。

○ヨーイ ドン。

(58) いっせいの、で！。

○セーノ。

(59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ！

○ヨイショ ヨイショ モー チョットダゾ。

(60) うんとこしょ、どっこいしょ、もう少しだ。

○59に同じ。

(61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

○ワッショ ワッショ。

(62) はじめはぐう、じゃんけん、ぼん！あいこでしょ。

○「サイショワ グー」という言い方は、今の子どもたちはしているが、昔はなかった。

この表現はテレビの影響だろう。昔はじゃんけんの掛け声は「ソーレン」だった。「アイコデショ」という表現も昔はなかった。相子になると、掛け声をかけず、勝負がつくまで黙って、何回でも一斉に手を出した。

(63) きをつけえ、まえへならえ、なおれ。

○キョーツケ。マエー ナレ。ナオレ。きをつけ。前へならえ。なおれ。

(64) きりつ、れい、ちゃくせき。

○キリツ、レー、チャクセキ。<「キリズ」「チズヤグセギ」のように濁音化しない>

(65) ばんざい、ばんざい。やった、やった。

○バンザイ。<「ヤッタ」は近年の言い方>

(66) えいえいおう。

○アー。<円陣を組んで一斉に腕を上げるとき>

(67) 中村君の誕生日を祝してかんぱい。おめでとう。

○上記に同じ。

(68) やっほう、やっほう。

○上記に同じ。

(69) ふれえ、ふれえ、白組。

○上記に同じ。

(70) おにはそと、ふくはうち。

○オニワソド オニワソド フクワウズ フクワウズ。<「フクワウズ」から始める地域もある>

(71) べらぼうめ、とんでもない子だ。

○トンデモネー コダ。とんでもない子だ。<「べらぼうめ」に当る言い方はない>

(72) それみたことか。わんぱく坊主。

○ホレ ミッチャ。ザーマ ヤロ。それ見ろ。ざまあ見ろ。

(73) ざまあ、みろ。いい気味だ。

○ザーマ ヤロ。ざまあ見ろ。

(74) ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。

○アノ ヤロ ヒデコド イーヤがッテ。あの野郎、ひどいことを言いやがって。

(75) このやろう。どうしてくれようか。

○コンチクショー ブッコロスゾ。こん畜生。ぶっ殺すぞ。

(76) たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

○バガヤロー フザゲダゴド ユーナ。馬鹿野郎。ふざけたこと言うな。

(77) ばかやろう。いい加減なことを言うな。

○76に同じ。

(78) あなかま、静かにしなさい。

○シーツ スズガシエー。しーっ、静かにしろ。

(79) しいいっ、静かにして。

○78に同じ。

(80) ちちんぷいぷい、蛙、蛙、生き返れ。

○無回答<何か使ったような気がするが思い出せない>

(81) あっかんべい。鬼さん、こちら。

○ベー (と言って舌を出し、指で両方の目の目尻を下げる。子どもが頼まれたことを断るときの反抗的な態度)

.....

(82) あっばれ、お見事。立派です。

○ヨグ ヤッダ。よくやった。

(83) でかした。でかした。日本一。

○82に同じ。

.....

(84) しっけい! すみません。

○回答①アー ドーモ スミマセン。ああ、どうも、すみません。<知らない人に>

回答②アー ワリ ワリ。ああ。悪い、悪い。<友達に>

(85) あばよ。達者でな。

○シェバノー ジョーブデノー。それではねえ。丈夫でねえ。

(さとう りょういち 東京女子大学)